

坂出市学校再編整備計画素案に係るパブリックコメントの結果について

1. パブリックコメントの実施状況

- (1)意見募集期間
平成20年2月1日～平成20年2月29日
- (2)意見の受付件数
159人 延べ218件

2. 意見の概要と坂出市教育委員会の考え方

分類	ご意見の内容(要旨)	意見件数	教育委員会の考え方
通学等	1 通学距離が長くなることにより、児童・生徒の下校時の安全性に問題があるので反対。	4	<p>○児童生徒の通学距離について、国は、小学校にあっては4 km以内、中学校にあっては6 km以内が適当であるとしていますが、本市では、学校再編整備の基準の中で、小学校にあっては3 km以内、中学校にあっては5 km以内を目安としています。</p> <p>○統合に当たって通学距離が一定以上となる場合には、公共交通機関の利用、若しくは、スクールバス（スクールタクシー）の運行で対応することになると考えています。その場合には、保護者の経済的負担を考慮し、通学助成を講じてまいります。また、保護者からの負担については、従来から他の地区で実施している5%程度の受益者負担をお願いしたいと考えています。</p> <p>○通学路の安全確保については、ハード面では、歩道の整備やガードレールや反射鏡等の設置が考えられますので、地域の要望も踏まえながら関係課と協議してまいります。また、ソフト面として、登下校時の交通安全や不審者対策については、引き続き地域の見守り活動等のご協力を頂き、警察等関係機関や少年育成センターと連携しながら安全対策に取り組んでまいります。</p> <p>○島嶼部については、特に地理的条件や交通手段の制約があることなどを十分に考慮する必要があると考えています。</p>
	2 通学のための交通安全施設の整備充実を要望する。	1	
	3 通学距離の目安の小学校で3 km、中学校で5 kmは、小学校低学年にとっては体力的に厳しいと思う。	2	
	4 王越地区から白峰中学校へのバス通学は、不便で負担が大きいのが現状である。	1	
	5 小学校の区割りは、旧町村合併前の区域を考慮する中で再検討してほしい。	1	
	6 学校の統合にあたり、スクールバスなど具体的通学手段について示してほしい。	1	
	7 スクールバスの場合、市の都合による統合なので保護者の経済的な負担増となるのはおかしいと思う。	2	
	8 統合後、特に新市内においては、通学路の安全確保に努力してほしい。	1	
	9 小学校低学年にとってバス通学は安全上問題があり、下校時間が遅くなればバス便がなくなり不便だ。	4	
	10 島には橋があるが、バス便が少なく、有料道路であるなど交通が不便である。	12	
	11 統合により島外の学校になると、悪天候の時に橋が渡れなくなり、帰りが遅くなるとバス便がなくなったり、急な病気などの緊急時に車が渡れなくなるなど、通学や交通面で問題がある。	14	
学校施設等	1 5年、10年先の統合よりも校舎の雨漏りの修繕など、今困っていることを早期に処理してもらいたい。	1	<p>○本市の学校施設は建築後30年以上経過した建物が、小学校は約48%、中学校は約73%、また、40年以上経過した建物が、小学校は約26%、中学校も約27%あり、老朽化に伴う修繕箇所が増えています。これまで緊急度や重要度を考慮しながら修繕に努めていますが、決して十分ではありません。市教育委員会としては、緊急を要する耐震化工事に合わせて、補修ができるように国庫補助事業を活用するとともに、予算の確保に努めてまいります。</p> <p>○校舎等の耐震化については、建築後50年前後となる老朽校舎等について、優先的に改築（新築）を進めるとともに、それに準じる老朽校舎等についても、順次、改築または大規模改造での対応を図ります。その他の耐震化未了の校舎は、坂出市公共施設耐震化計画に基づいて耐震化を進めます。なお、今後の耐震診断の結果により、震度6強の大地震によって倒壊等の危険性が高いs値（耐震強度指標）が0.3未満の校舎については早急に耐震化を図ります。</p> <p>○校舎の改築（新築）工事や大規模改造工事を施行するのは、将来にわたり校地として位置付けられた学校とします。また、学校跡地の利用方法については、地域の皆様のご意見を尊重する中で利用計画を作成してまいります。</p> <p>なお、現在の市立小・中学校の体育館につきましては、統合後も引き続き、災害時における地域の避難場所としての位置づけができるよう市の防災担当部署と協議してまいります。</p> <p>○統合校の選定に当たっては、敷地面積、校舎面積、教室数、周辺環境、交通の利便性などを考慮しながら決定してまいります。</p>
	2 校舎が古いので、学校の再編や市内道路の整備より、校舎等教育環境の整備を優先してもらいたい。	1	
	3 学校は、地震の際の避難所であり、歩いて行ける距離であることが必要なので統合に反対。	1	
	4 学校の統合により、災害時における避難場所である機能がなくなるのではないかと心配である。	1	
	5 耐震補強工事は本来行政が責任をもって早期に実施すべきものであり、学校再編とは別の問題である。	1	
	6 統合に伴う新設校の設置は、交通の利便性や周辺の文教施設との一体化を考慮した場所を選定されたい。	2	
	7 統合に伴う新設校の設置は、用地拡張の可能性も含めた広い学校用地の確保を考慮して選定されたい。	2	
	8 統合に伴う新設校の設置は、学校跡地の利用・活用価値を十分考慮されたい。	2	
	9 再編に伴う学校跡地を地域の活性化に有効利用してほしい。	1	
	10 島の学校はまだ新しいので統合はもったいない。存続すべき。	5	
	11 島の場合、校舎等建物の耐久性に問題がないのであれば、統合は急がなくてよい。	8	

教育・教員	1	子どもは社会の宝であるので、学校再編より人材育成に力を注いでほしい。	1	○教育現場の環境が複雑・多様化する中で、教員は年々多忙になってきているのが現状であり、教員が子どもたちと接する時間は減少傾向にあります。そのため、教育委員会としても、加配教員の増員について県へ積極的に要望を行うほか、特別支援教育支援員の増員を図るなど、教員の負担軽減につながるよう支援してまいります。また、島しょ部の学校の統廃合については、交通事情や地域の実情を十分に考慮する必要があると考えています。
	2	教育現場の先生方が様々な学校行事等で忙しすぎるので、もっとゆとりを持って子どもたちと交流する時間を作ってほしい。	1	
	3	島では、不登校の子どもにとっても楽しい学校生活が過ごせると思う。	1	
	4	島の学校では、友人みんな仲が良く、先生方も一生懸命教えてくれたので、学校を残してほしい。	1	
	5	僕は、島の中学校を卒業した高校生ですが、マンツーマンで授業ができるのは島以外ではできない。	1	
	6	子どもにとって島のように自然が多く落ち着いた環境の中でのびのび勉強ができることが大切である。	4	
学校・クラスの規模	1	少人数での学校存続が果たして子どもたちにとって良いのかどうか疑問である。	1	○本市では、小・中学校の望ましい学校規模を12学級以上18学級以下としており、11学級以下の小規模な小・中学校を再編の対象としています。 ○一般的に、小規模校では、学校での学習や運動などにおいて、一人ひとりの個性や特性に応じたきめ細やかな教育が実現できるなどのメリットがある一方で、大きい集団生活の中で互いに切磋琢磨したり、一定規模の集団生活における規律や規範意識を学んだりする機会が少ないことにより、進学先の学校や社会などの大きな集団において、個性や長所を十分に発揮できにくくなる傾向があるなどのデメリットが指摘されています。 ○学級規模については、香川県では40人学級制を採用していますが、例えば1学年の児童数が41人の場合では21人と20人の学級の2学級ができ、1学年の児童数が40人以下の場合には、40人以下の学級が1学級できることとなります。ちなみに平成20年度の本市の休校を除く14小学校の学級数は105あり、そのうち20人以下の学級が23（全体の22%）あります。仮に30人学級にした場合は、学級数が24増加して129となり、そのうち20人以下の学級が57（全体の45%）になります。一方、中学校6校では、20人以下の学級が6ありますが、30人学級になっても20人以下の学級数は6のまま変わりません。こうした状況の中で、学級が小規模化に向かうことが果たしてよいのかどうか、高校進学や社会人となっていく児童生徒の実情を踏まえながら、十分に検討する必要があります。なお、学校では、1つの学級で一斉に授業を行うだけでなく、教科によってはグループ別授業や習熟度別授業など、多様な授業形態を取り入れながら、より効果的な指導ができるよう取り組んでいます。 ○学校規模や学級規模について、教育委員会の方針として一定の基準を設けることが必要になってきます。しかしながら、具体的に学校ごとにあるべき姿を考えるときには、学校の歴史や地域の諸事情を十分に考慮しなければならないと考えています。
	2	私の子どもの通っている小学校は各学年1クラスで少ないので、近い将来統合は仕方がないと思う。	1	
	3	坂出には小学校が多すぎると思う。1学年に2クラス以上は必要であると思う。	1	
	4	学級規模については、40人学級から30～35人学級にし、ゆとりある少人数学級にしてほしい。	5	
	5	複式学級は子どもの成長に良くない。大勢の中で競争することによって育っていくものである。	1	
	6	少人数学級・小規模学校では、児童・生徒がきめ細やかな指導が受けられるという長所がある一方で、子ども同士の育ち合いができないという短所がある。	1	
	7	11学級以下の学校の方が、先生方が子ども達を把握するのに適切な規模である。	1	
	8	小規模な小学校から大きな規模の中学校に進学したとき、とまどいを感じてギャップが生じる。	1	
	9	学校規模があまり大規模になると、先生から生徒の顔が見えなくなることが危惧される。	1	
	10	統合によって小規模の学校がなくなると、大規模校に適應できない子どもの行き場がなくなる。	1	
	11	統合によって大規模校ばかりになるので、適応指導教室の増設などの充実を図られたい。	1	
	12	適正な学校規模は行政側の考えである。歴史文化や生活様式の違う島を陸地の尺度で計らないでほしい。	1	
	13	集団生活の競争よりも、小さいけれど島の学校と地域が一体になって行事を行うなどの良い面がある。	2	
	14	小規模校の持つメリットもデメリットも体験、理解したうえで子どもを島内の学校に通わせたい。	1	
地域等	1	地域の学校がなくなれば、祖父母や地域住民が行事に参加できなくなるとともに地域の過疎化が進むので反対。	3	○現時点である程度の人口規模を有する地域にあつては、それほど危機感がなく、学校再編の議論が果たして今必要なのかという疑問を持つ方も少なくありません。しかし、人口の減少問題、とりわけ年少人口の減少傾向は着実に社会生活の各分野で深刻な影響を及ぼしてきています。したがって、今のうちから学校配置の在り方について明確な将来像を描き、的確な対応をとっていくことが必要だと考えています。 ○現在の学校をそのまま存続させたいというのは、長い学校の歴史の中で、ほとんどの方が地域あつての学校、学校あつての地域という思いが強く表れているのであつて、当然の感情だと思えます。また、学校の存続問題は、小学校単位で構成されてきた自治会、婦人会、老人会、子ども会等の様々な組織体制や、これまで形成されてきたそれぞれ地域特有の文化に関わる大きな問題であります。学校再編の取り組みに当たっては、そうした地域の思いに十分配慮しながら、何よりも、今現在の、そしてこれからを生きる子どもたちにとって、より望ましい教育環境をいかに作っていくかを第一に考えて進めていかねばならないと考えています。
	2	統合には賛否両論があるので、地域にきちんとした説明をしてほしい。	1	
	3	島しょ部の学校は、統合した後も、自然や野外生活の体験学習の場として学校を存続してはどうか。	1	
	4	調整区域の線引き廃止に伴い活性化しつつある地域は、統廃合に伴い小学校がなくなることにより、再開発の進捗が減速するのではないかと心配である。	1	
	5	王越地区は小学校の行事を軸に地域活動が成り立っており、学校がなくなれば高齢化、過疎化がより一層進むと思う。	2	
	6	家庭教育と、自治会や婦人会、老人会などの地域教育力との連携・協力体制の強化が重要である。	1	
	7	統合後も子ども会活動や防犯パトロール活動など、地域の諸団体とのつながりを保っていくことが重要。	1	

地域等	8	統廃合にあたっては、旧市内と新市内では地域住民の考え方が違うことも考慮した対応が必要である。	1		
	9	学校は昔から地域の核であり文化の中心であるので、統合に際して地域意識の育成、地域活力の維持が必要。	2		
	10	これまで学校を中心に自治会活動や地域団体との交流が営まれてきた。地域に学校は必要である。	1		
	11	島の学校は地域と一体である。学校がなくなることにより、活気がなくなり過疎化が進むので反対。	13		
	12	運動会・学習発表会などの学校行事は島民にとって何よりの楽しみなので、学校を存続してほしい。	7		
	13	学校がなくなれば若者が減り年配者が増え、地域が衰退する。学校は必要であり現状維持でお願いしたい。	17		
	14	島では漁業を継ぐため若者がUターンで戻ってきている。島の活性化のためにも学校を残してほしい。	18		
	15	島は橋が架かっていても不便な面がある。島と陸地は生活環境が違うので、いっしょにしないでほしい。	2		
	16	島民全体で、常に子ども達を見守ってくれているので、地域の学校で学ばせたい。	2		
	17	島民は、清掃活動や運動会、祭りなどの行事の場で子ども達とふれあうことに喜びを感じている。	6		
	18	島には昔からの文化や伝統があり、学校がなくなれば継承する者もいなくなり衰退するので学校は必要。	13		
	19	学校は、地域の子ども、大人、老人にとって大切な交流の場であるので、統合を急がなくてよい。	3		
	20	島内の行事は、島を活気づけており、また学校を中心に行われているので学校を残してほしい。	5		
	21	島の学校は母校であり、老人にとって学校との交流は楽しみであり、生きる希望となっているので統合反対。	8		
	22	地域には地域でしか学べないものがある。市の財政状況など大人の理由で学校をなくさないでほしい。	4		
	市政全般・その他	1	統廃合の計画は、やはり人件費や経費削減など財政の効率化を求めている計画なのでしょうか。	1	○公立小中学校の再編整備については、これまでの児童生徒数の推移や学校施設の老朽化・耐震化の対応などについて調査研究を進めてまいりました。非常に厳しい財政環境にある本市の実情からすれば、当然、行財政改革の一環としての側面がありますが、教育委員会としては、次代を担う子どもたちの教育効果を第一に考えて最適規模の学習集団を編制し、学校が学校として最大限の機能を発揮できる教育環境を作り出すために、いかに学校の再編整備を進めていくかを最重要課題としてとらえています。 ○市全体のまちづくりについては、第4次坂出市総合計画の中で、将来に過大な負担を残さないために、行財政改革を進めながら、「市民優先、市民公平の原則」のもと、長期的な視点で市民福祉の向上と市勢発展を目指しています。そのために、現在、様々な少子化対策や企業誘致の推進など総合的な見地から、安全・安心なまちづくりや市民の皆様が住みやすいまちづくりに取り組んでいるところです。 ○教育内容や教育環境等について、学校や地域からの要望がたくさんありますが、財源など様々な条件を整えながら取り組んでまいりたいと考えています。
		2	市は、少子化の進行に伴い、公的施設・医療機関・商業施設の充実、および企業誘致や安全安心のまちづくりなど、市民が住みやすい総合的なまちづくりを推進することが重要である。	1	
		3	学校再編には全面的に賛成であるが、制服の統合に際しては、もっと機能的なものにするとともに、名前の刺繍に代えて、名札のほうがよい。	1	
		4	計画素案の将来構想を後期に入れて二段階とすれば計画がより具体的になる。	1	
		5	50年先の坂出市の姿を構築する中で、統廃合を進めてほしい。	1	
		6	学校の統合や島の活性化について、他市の事例などをもとに意見を出し合い、話し合う時間が必要である。	1	
		7	現在、給食がないので昼食を自宅に帰って食べているが、統合により他の島になると給食が必要になる。	2	
8		学校を存続してほしい。もし統合するのなら10年以降にしてほしい。	1		
9		島外の人は島のことを十分わかっていないのだから、島の学校の事には口出ししないでほしい。	1		

問合せ先
 教育委員会学校教育課
 電話(0877)44-5024
 FAX(0877)44-4566